

令和6年度 都立高島特別支援学校 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組 織

(1) 都立高島特別支援学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成 副校長、主幹教諭＝事務局長 1 名 主幹教諭（教務主任） 1 名 計 3 名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹 6 名 (研究研修部、教務主任、生活指導主任、小学部主任、
中学部主任、キャリア支援部主任)、保健主任 計 1 0 名

(4) 協議委員の構成

埼玉学園大学専任講師、明治学院大学非常勤講師、板橋区教育委員会指導室特別支援教育係長、
練馬区教育委員会事務局学務課就学相談係長、都立板橋特別支援学校校長、板橋区高島平福祉園
園長、板橋区立高島平あやめ保育園園長、東京YWCAキッズガーデン施設長、板橋区志村坂上
地区主任児童委員、練馬区春日町・田柄地区主任児童委員、本校PTA副会長 計 1 1 名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容

・日時：第1回 令和6年5月24日（金）

開催方法：本校にて実施 内部委員 5 名、協議委員 1 1 名

内容：協議委員委嘱、委員紹介、令和5年度学校経営報告、令和6年度学校経営計画説明、意見交換

・日時：第2回 令和6年10月4日（金）

開催方法：本校にて実施 内部委員 5 名、協議委員 1 1 名

内容：就学前授業体験「にこにこ広場」見学、学校評価について意見交換

・日時：令和6年10月7日（月）～10月11日（金）期間内で一日

開催方法：学校見学 協議委員 1 0 名

内容：見学後、書面によるアンケートで意見集約

・日時：第3回 令和6年2月21日（金）

開催方法：本校にて実施 内部委員：5 名、協議員 9 名

内容：学校評価アンケート結果・分析の報告、令和7年度学校経営計画改革プラン説明、
評価委員会報告、提言を受けての意見、助言等

(2) 評価委員会（第1～2回）の開催日時、出席者、内容

・日時：第1回 令和6年9月20日（金）

開催方法：本校にて実施 内部委員 3 名、評価委員 2 名

内容：今年度の学校評価（保護者アンケート、本人評価、校内評価、第三者アンケート）について

・日時：第2回 令和7年2月21日（金）

開催方法：本校にて実施 内部委員 3 名、評価委員 2 名

内容：今年度の学校評価のまとめの報告、令和7年度学校経営計画への提言案など

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

学校経営計画の5つの柱（人権尊重、安心安全、専門性向上、共生社会、校務改善・学校魅力化）
について①保護者②第三評価委員③教職員が評価し、数値化した差異を分析し、令和7年度の学校経
営計画に反映させ、改善を図る。

(2) アンケート調査の実施時期・評価項目・回答率

名称	対象者	回答率	実施方法
本人評価	全児童・生徒	362 名中 354 名が回答 (回答率：97.8%)	紙文書（イラスト入） もしくは GIGA スクール端末
校内評価	全教職員	142 名中 142 名が回答 (回答率：100%)	Forms
学校関係者評価	全保護者	362 名中 341 名が回答 (回答率：94.2%)	Forms
第三者評価	学校運営連絡協議会委員	対象者 11 名中 11 名が回答 (回答率：100%)	Forms

(3) 主な評価項目

- ・人権尊重（人権を尊重した教育活動）
- ・安心安全（体罰、いじめのない安心・安全な学校づくり、安全で快適な教育環境の整備、防災や安全に関する対策）
- ・専門性向上（学校生活支援シート等の活用、個別指導計画の充実、個に応じた指導の充実、コミュニケーションに関する指導の充実、外部専門員の活用、キャリア教育の取り組み）
- ・共生社会（情報発信、副籍交流、学校間交流、地域との連携強化）
- ・校務改善・学校魅力化（教職員のライフワークバランスの推進、伝統の継承、ホスピタリティの向上）

(4) 評価結果の分析・考察

保護者評価

肯定的評価が80%以下になる評価項目はなく、総じて肯定的な評価が多い結果となった。

授業参観や面談、連絡帳でのやり取り等、児童・生徒の様子について日常的に見聞きすることが多い事柄については、肯定的評価が90%以上となった。

学部の違いや児童・生徒の個別の実態等によって、体験したり見聞きしたりする機会の少ないキーワード（「伝統と新規事業・学校魅力化」「外部専門員」「キャリア教育」等）を含む設問については肯定的評価がやや下がる結果となった。その中であって情報発信による学校経営の理解充実度に対する肯定的評価が高いことは、今年度の学校経営の重点の一つとしていた「情報発信の充実」の成果であると考ええる。今年度は学年便りで授業の様子を伝えたり、Xで校外活動や行事等の様子を発信したり、子供たちの近況を伝える内容の充実に努めた。来年度も適切なタイミングで情報提供し一層の教育活動の理解が得られるように努めていく。

学校運営連絡協議会

100%の肯定的評価が多く、ほとんどの項目が90%以上の肯定的な評価だった。防災・安全に関する対応策を問う項目のみ81.8%の評価となり、他質問と比べると肯定率が低くなった。

自由記述に5名の委員から、「詳細は分からない」「見学した内容を基に回答した」という趣旨の記述があり、学校評価アンケートそのものについては回答することへの難しさについて率直なご指摘をいただいた。

「災害や不審者対応等、安全に関する対策・対応」「キャリア教育の充実」については2名が「わからない」を選択した。学校運営連絡協議会委員に防災に係る取り組みを情報提供する機会を計画したい。キャリア教育については全校的な課題であるので、効果的な教育活動の計画実施と情報提供を検討したい。

教職員

肯定率が低かった評価項目は「キャリア教育」「教育課程改善」「GIGA・デジタル・AT 利活用」である。

「キャリア教育」については高等部が設置されていないため、高等部設置校での勤務経験のない教員には、どのような課題や目標に向かって指導するのかを想像しにくく、本校が自信を持てていない領域である。

「教育課程改善」についての肯定的評価の低さは、教育課程編成・実施・評価が全校のものになっていないことを表している。教育課程は学校そのものであることと、本校が3か年かけて都指定研究としてカリキュラム・マネジメントを進めてきたことから、重要な経営課題として意識して改善を図る必要がある。

「GIGA・デジタル・AT 利活用」については、実に20人超にあたる14.8%が「分からない」＝「評価することができない」と回答した。昨年度の類似の評価項目の肯定的評価83.1%より、16.2%も肯定的評価が減少した。保護者の肯定的評価も80%台に留まっており、改善が必要であることが示された。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価への反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・各種通信（学校だより、保健だより、X等）による情報発信や学校見学による教育活動の共通理解などを通して、学校経営に対する理解を深めることができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・人権感覚は一人一人に違いがあることを基本としながら、組織として意識の共有を図ること。
- ・キャリア教育においては、キャリアを意識した指導が基本となるような授業づくりが必要。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）人権尊重に向けた教育活動の継続

- ・児童・生徒の年齢に相応しい対応や学習内容について、教育活動の検証
- ・人権感覚向上のため、第三者の視点の取り込み
- ・いじめ・体罰・自殺防止委員会による早期発見対応を継続

（2）安心安全な学校づくりに向けた校内体制強化

- ・老朽化校舎の機能維持と事故防止に都教委と連携、全校での取り組みを継続
- ・学校保健において養護教諭と学校三師との協同を継続
- ・地域住民や保護者、高校関係者との実効性ある総合防災訓練の計画と実施
- ・インシデント・アクシデント発生後の情報共有や防止策徹底の危機管理意識向上

（3）専門性向上のさらなる推進

- ・ICT、AT、デジタル利活用に関する実践的研修や情報共有の推進
- ・外部専門員活用や授業研究、教材作成のための時間確保による成果を保護者と共有
- ・強い身体的プロンプトや支援のし過ぎを低減し、児童・生徒の主体的な行動を引き出す取り組みの継続
- ・各教科を合わせた指導の教育内容の改善の推進
- ・キャリア教育や進路指導の指導力向上に組織的な取り組みを推進

（4）共生社会実現に向けた教育活動の充実

- ・特別支援教育コーディネーターの人材育成の取り組みを継続
- ・副籍交流のノウハウや成果と課題の共有
- ・特別支援学校の理解充実策の継続
- ・学校間交流の内容の見直しと保護者参観による理解充実の継続

（5）校務改善・学校魅力化の推進

- ・ワークシェアの推進を図り、超過勤務時間縮減数値目標を設定
- ・情報発信内容の質と量の精査
- ・学生受け入れ（教育実習生以外）の持続可能な規模と内容での継続